

報告書抄録

ふりがな	かみおおりしょうみずきあと2							
書名	上大利小水城跡2							
副書名	第3次確認調査							
巻次	2							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第180集							
編著者名	山元 瞭平							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1 電話 092 (501) 2211							
発行年月日	2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおおり 上大利 しょうみずきあと 小水城跡	福岡県大野城市 旭ヶ丘1丁目788-1、 788-2 外	402192		33° 30′ 32″	130° 29′ 03″	2017年 5月24日 ～ 2017年 11月8日	60㎡	内容確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上大利小水城跡 第3次確認調査	古代都城跡	飛鳥 奈良 平安	土塁・ピット・溝	須恵器・土師器・瓦		土塁が北側に広がること、土塁西端部が築造時の形状を留めていることが判明		
要約	<p>水城跡は、『日本書紀』天智天皇3(664)年に築造の記事が見える古代の土塁跡である。上大利小水城跡は、水城跡と一連の遺構と考えられており、水城跡では遮断しきれない小規模な谷を塞ぐために築造された小土塁である。</p> <p>今回の調査は土塁前面部(北側)の整備事業に先駆けて実施したものである。調査の結果、土塁が北側に広がるほか、土塁の西端部は築造当時の状態を留めていることが判明した。こうした成果から、築造当時の土塁は、長さ90m以上、最大幅23m、高さ5mに復元できた。土塁は、下成土塁と上成土塁からなる二段構造で、砂質土と粘質土を互層状に積み上げて構築していた。外濠は確認できなかったが、湿地状態が作り出されていたものと考えられた。また、土塁西端部には門や道の存在が推定された。</p>							

大野城市文化財調査報告書 第180集
上大利小水城跡 2

令和2年3月31日

発行 大野城市教育委員会
〒816-8510
福岡県大野城市曙町2-2-1

出版 九州コンピュータ印刷
〒815-0035
福岡県福岡市南区向野1-19-1